

太田川ダム濁水対策検討会（第1回）

議事概要

日 時：平成27年8月4日(火) 10:45～16:00

視察場所：太田川上流部及び太田川ダム周辺

会 議：森町町民生活センター1階会議室

1. 現場視察について

太田川・三倉川合流部、森町体験の里アクティ森、太田川ダム周辺で周辺の環境状況を視察したとともに、ダムの機能や効果について説明を行った。

2. 検討会の議事運営等について

- 袋井土木事務所企画検査課課長より検討会設立の趣旨説明（別紙参照）が行われた。
- 検討会規約（案）が了承された。
- 会長に中部大学工学部教授、松尾直規氏が選出された。
- 検討会は原則公開とした。
- 議事概要を袋井土木事務所ホームページにて公開することとした。

3. 議事

- ①ダムの運用と濁水の発生状況
- ②これまでの対策と今後の検討
- ③今後の予定

各会員からの事務局に対する主な意見を以下にまとめた。

- 流域に大きな崩壊はなく比較的地山は安定しているように見えるが、上流の森林から極力濁質を発生させないようにすることが大切である。
- 太田川ダムは貯水の入れ替えが比較的小さいため、沈降がなかなか望めない可能性がある。
- 昔は、出水時に茶色に濁った水はすぐに引いたが、白濁したものはなかなか収まらない。台風11号の後、太田川では2週間程度濁水が続いたが、三倉川は3日程度であった。
- 7、8月に集中して実施できる濁水対策はあるかご教示願いたい。
- 水源林の保全は濁水の抑制に効果的である。大きな崩壊だけが濁りを発生させるものでないので、環境共生型の水源地づくりが必要ではないか。
- 今年度実施する追加調査はシミュレーションの精度を上げるために必要である。水温

分布が的確に再現されないと、濁水の分布を正確に把握することができない。

- ダムが完成してから、漁協組合員が徐々に減っているため、早く濁水の改善を図って欲しい。
- シミュレーションは、多くの条件が一度に入ってアウトプットが出るため、観測値と一致しない場合は、何が悪いのか絞りきれない。このため、各パラメータの適合性を検証することが重要である。1つの対策に絞り込むのではなく、複数の対策を組み合わせることで、効果は期待できる。
- 礫間浄化は自然の川では普通に行われている。今後は瀬・淵の造成を検討して頂きたい。
- 濁水対策案の1つとして、放流量を増大した弾力的運用が考えられる。礫に付着したシルトを洗い流す効果もあると考えられる。

以上